

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
Pome Fruit リンゴ ナシ マルメロ ビワ 等	アブラムシ類	0.05-0.075	航空散布 10 gallons/A 地上散布 50 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	Tentiform leafminer	0.05			
	ヨコバイ類	0.05-0.075			
	コドリंगा	0.075-0.15			
	ナシヒメシンクイ Lesser apple worm	0.1-0.15			
	コナカイガラムシ類 <i>Psylla mullein</i> カスミカメムシ類	0.075-0.15			
	European apple sawfly マメコガネ	0.1-0.15			
	Apple maggot Plum curculio ナシマルカイガラムシ	0.15			
	Dogwood borer	0.15			
Stone Fruit アプリコット オウトウ ネクタリン モモ プラム 等	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.05-0.10	航空散布 10 gallons/A 地上散布 50 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	Glassywinged sharpshooter	0.075-0.15			
	ナシヒメシンクイ Peach twig borer Plum curculio Cat-facing insects	0.1-0.15			
	Cherry fruit fly Black cherry fly Western cherry fly	0.10-0.15			
	ナシマルカイガラムシ マメコガネ Rose chafer	0.1-0.15			
イチゴ および Low growing berry類	Blueberry maggot, Blueberry spanworm, Cherry fruitworm, ノミハムシ類,	0.075-0.13	航空散布 10 gallons/A 地上散布	収穫 1日前	2回 以内

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
	マメコガネ, Oblique banded leaf roller, カシカメムシ類 ケシキスイ類, アザミウマ類 コナジラミ類 Fireworm		20 gallons/A	まで	
	アブラムシ類 ヨコバイ類 アワフキムシ類	0.035-0.075			
ブルーベリー および Bush and Cane berry 類 <u>ブルーベリー</u> <u>ラズベリー</u> 等	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.044-0.1	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 1日前 まで	5回 以内
	コナジラミ類	0.075-0.1			
	マメコガネ, Blueberry maggot, ケシキスイ類, Tamished plant bug, Strawberry rootworm, Carnberry fruitworm, Cherry fruitworm, ノミハムシ類, Blueberry spanworm アザミウマ類	0.085-0.1			
ぶどう キウイフルーツ (Fuzzy kiwifruit を除く)	ヨコバイ類, Glassywinged sharpshooter, アブラムシ類, コナカイガラムシ類 Western grapeleaf skeletonizer (ロッキー山脈東側のみの登録) ブドウネアブラムシ Banded grape bug Rose chafer マメコガネ	0.05	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	2回 以内

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
雑実	アブラムシ類	0.025-0.05	地上散布 5~10 gallos/A	収穫 28日前 まで	4回 以内
	シルバーリーフ コナジラミ	0.075-0.1			
	カスミカメムシ類	0.05-0.1			
	ノミハムシ類	0.025-0.05			
	アザミウマ類	0.05-0.075			
	オオタバコガ (卵)	0.025-0.05			
	コナジラミ類 (卵)	0.075-0.1			
Tree Nuts アーモンド ペカン マカデミアナッツ ピスタチオ 等	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.05-0.18	航空散布 10 gallons/A 地上散布 50 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	Glassywinged Sharpshooter Pecan Nut Casebearer	0.075-0.125			
	コドリンガ ナシヒメシクイ Peach twig borer ナシマルカイガラムシ Hickory shuckworm Pecan weevil Red humped caterpillar Filbertworm Navel orangeworm	0.1-0.18			

② Assail 水溶性粒剤 (アセタミプリド 30%)

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
まめ類 エンドウマメ	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.047-0.1	航空散布 5 gallons/A	収穫 7日前 まで	3回 以内

Cucumber beetle

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
インゲンマメ ダイズ 等	ダイズサルハムシ インゲンテントウ		地上散布 20 gallons/A		
	コナジラミ類	0.075-0.1			
	アザミウマ類	0.085-0.1			
Tuberous And Corm Vegetables ジャガイモ サツマイモ クズウコン アーティチョーク 等	アブラムシ類	0.047-0.075	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	ヨコバイ類, コロラドハムシ Cucumber beetle	0.028-0.075			
	ノミハムシ類	0.028-0.047			
	ヨーロッパアワノメイガ (卵)	0.047-0.075			
アブラナ科作物 ブロッコリー キャベツ 芽キャベツ ミズナ カリフラワー ケール 等	アブラムシ類	0.038-0.075	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	5回 以内
	コナジラミ類	0.047-0.075			
	アザミウマ類	0.075			
	コナガ	0.075			
	Swede midge	0.075			
葉野菜 セロリ レタス カラシナ ホウレンソウ パセリ 等	アブラムシ類	0.038-0.075	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	5回 以内
	コナジラミ類	0.056-0.075			
タマネギ および Bulb Vegetable 類	アザミウマ類	0.094-0.15	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
タマネギ ニンニク ユリネ 等					
果菜類 ナス トマト ホウズキ トウガラシ 等	アブラムシ類	0.038-0.075	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	コロラドハムシ	0.028-0.047			
	コナジラミ類	0.047-0.075			
	アザミウマ類	0.075			
	Pepper weevil	0.047-0.075			
うり類 メロン キュウリ カボチャ スイカ 等	Cucumber beetle Melonworm Pickleworm	0.047-0.10	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫直後 まで (PHI 0)	5回 以内
	ヘリカメムシ類 Squash vine borer	0.10			
	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.047-0.075			
	シルバーリーフ コナジラミ	0.047-0.10			
柑橘類 グレープフルーツ キンカン レモン ライム オレンジ ミカン 等	アブラムシ類 Citrus thrips, ミカンハモグリガ, Caribbean black scale, Glassywinged shaepshooter	0.047-0.103 0.075-0.13	航空散布 20 gallons/A 地上散布 100 gallons/A	収穫 7日前 まで	5回 以内
	アカマルカイガラムシ, カンキツカタカイガラムシ	0.15-0.25			
	キリギリス類	0.11-0.19			
Pome Fruit リンゴ	アブラムシ類	0.047-0.075	航空散布 10 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	Tentiform leafminer	0.047			

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
ナシ マルメロ ビワ 等	ヨコバイ類	0.047-0.075	地上散布 50 gallons/A		
	コドリンガ	0.075-0.15			
	ナシヒメシンクイ Lesser apple worm	0.094-0.15			
	コナカイガラムシ類 <i>Psylla mullein</i> カスミカメムシ類	0.075-0.15			
	European apple sawfly マメコガネ	0.094-0.15			
	Apple maggot Plum curculio ナシマルカイガラムシ	0.15			
	Dogwood borer	0.15			
Stone Fruit アプリコット オウトウ ネクタリン モモ プラム 等	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.047-0.10	航空散布 10 gallons/A 地上散布 50 gallons/A	収穫 7日前 まで	4回 以内
	Glassywinged sharpshooter	0.075-0.15			
	ナシヒメシンクイ Peach twig borer Plum curculio Cat-facing insects	0.10-0.15			
	Cherry fruit fly Black cherry fly Western cherry fly	0.10-0.15			
	ナシマルカイガラムシ マメコガネ Rose chafer	0.10-0.15			
イチゴ および Low growing berry 類	Blueberry maggot, Blueberry spanworm, Cherry fruitworm, ノミハムシ類, マメコガネ, Oblique banded leaf roller,	0.075-0.13	航空散布 10 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 1日前 まで	2回 以内

作物群	適用病 害虫名	薬量 lb ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
	ケシキスイ類, アザミウマ類 コナジラミ類 Fireworm				
	アブラムシ類 ヨコバイ類 アワフキムシ類	0.035-0.075			
ブルーベリー および Bush and Cane berry 類 ブルーベリー <u>ラズベリー</u> 等	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.047-0.1	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 1日前 まで	5回 以内
	コナジラミ類	0.075-0.1			
	マメコガネ Blueberry maggot, ケシキスイ類, Tarnished plant bug, Strawberry rootworm, Cranberry fruitworm, Cherry fruitworm, ノミハムシ類, Blueberry spanworm アザミウマ類	0.085-0.1			
ぶどう キウイフルーツ (Fuzzy kiwifruit を 除く)	ヨコバイ類, Glassywinged sharpshooter, アブラムシ類, コナカイガラムシ類 Western grapeleaf skeletonizer (ロッキー山脈東側のみの登録) ブドウネアブラムシ Banded grape bug Rose chafer マメコガネ	0.047	航空散布 5 gallons/A 地上散布 20 gallons/A	収穫 7日前 まで	2回 以内
綿実	アブラムシ類	0.028-0.047	航空散布 5 gallons/A	収穫 28日前 まで	4回 以内
	シルバーリーフ コナジラミ	0.075-0.1			

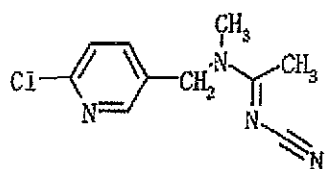
作物群	適用病 害虫名	薬量 Ib ai/A	使用 液量	使用 時期	使用 回数
	カスミカメムシ類	0.047-0.1	地上散布 10 gallons/A		
	ノミハムシ類	0.028-0.047			
	アザミウマ類	0.047-0.075			
	オオタバコガ (卵)	0.028-0.047			
	コナジラミ類 (卵)	0.075-0.1			
Tree Nuts アーモンド ペカン マカデミアナッツ ピスタチオ 等	アブラムシ類 ヨコバイ類	0.047-0.18	航空散布 10 gallons/A 地上散布 50 gallons/A	収穫 14日前 まで	4回 以内
	Glassywinged Sharpshooter Pecan Nut Casebearer	0.075-0.15			
	コドリング ナシヒメシンクイ Peach twing borer ナシマルカイガラムシ Hickory shuckworm Pecan weevil Red humped caterpillar Filbertworm	0.10-0.18			

6. 作物残留試験

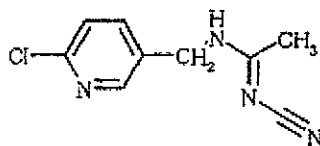
(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

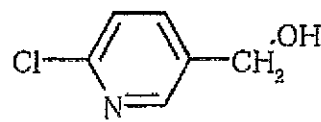
- ・ アセタミプリド (GC法、HPLC法)
- ・ アセタミプリド及び代謝物 5 化合物 (IM-2-1, IM-0, IM-0-Glc, IC-0) (統一法)



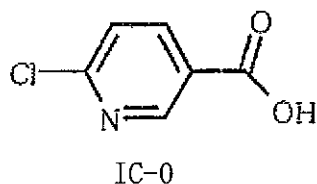
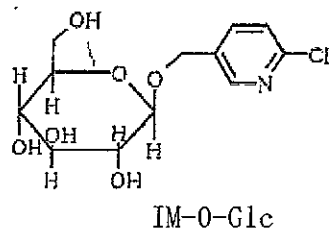
アセタミプリド (NI-25)



IM-2-1



IM-0



② 分析法の概要

・ GC法

アセトン抽出後、酢酸エチルに転溶し、ケイ酸マグネシウムミニカラムで精製後、アルカリ熱イオン化検出器又は高感度窒素・リン酸検出器付きガスクロマトグラフで定量する。

・ HPLC法

アセトンで抽出、多孔性ケイソウ土カラムを通した後、ケイ酸マグネシウムミニカラムで精製し、高速液体クロマトグラフを用いて定量する。

・ 統一法

メタノールで抽出後、水酸化ナトリウムで加水分解し、更に過マンガン酸カリウムで酸化し、すべての化合物を同一化合物（IC-0）とする。ジクロロメタン+アセトンに転溶後、ジアゾメタンを用いて、エステル化し、カラムクロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフ（ ^{63}Ni ECD等）で定量する。

(2) 作物残留試験結果

作物残留試験においては、代謝物については、個別の定量は示されておらず、アセタミプリド又は代謝物をアセタミプリドに換算した分析値として記載されている。

①-1 とうもろこし

とうもろこし（種子）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量^(注1)は、<0.05、<0.05ppmであった。

①-2 未成熟とうもろこし

未成熟とうもろこし（種子）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

未成熟とうもろこし（種子）を用いた作物残留試験（2例）において、18%液剤の64倍希釈液を3回散布〔(3.2L/10a)産業用無人ヘリによる散布〕したところ、散布後14日の最大残留量は<0.05、<0.05ppmであった。

② あずき

あずき（乾燥種実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は、<0.06、0.60ppmであった。

③ ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200～300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.005、<0.005ppmであった。

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の撒溝処理（1回）（6kg/10a）及び20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植溝土壌混和（1回）（6kg/10a）及び18%液剤の64倍希釈液を3回散布〔（3.2L/10a）無人へりによる散布〕したところ、散布後7日の最大残留量は<0.05、<0.05ppmであった。

④ さといも

さといも（塊根）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の播溝散布処理を1回散布（6kg/10a）したところ、散布後160、183日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

⑤ やまのいも

やまのいも（塊根）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7、14日の最大残留量は0.01、0.01ppmであった。

⑥ こんにゃくいも

こんにゃくいも（球茎）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の株元土壌混和を1回（3kg/10a）行ったところ、散布後134、136日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

⑦ てんさい

てんさい（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の120倍希釈液を1回処理〔（6L/m²（10a相当））植え付け相当分苗床灌注〕したところ、処理後162、167日の最大残留量は<0.05、<0.05ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

⑧ ⑨ だいこん

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の播溝処理を

1回(4kg/10a)したところ、散布後42、70日の最大残留量は0.03、<0.01ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

だいこん(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布(100~200/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.01、<0.01ppmであった。

だいこん(つまみ菜)(間引き菜)を用いた作物残留試験(2例)において2%粒剤の播溝処理を1回(4kg/10a)したところ、散布後13、12日の最大残留量は1.98、0.397ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

だいこん(葉部)を用いた作物残留試験(2例)において2%粒剤の播溝処理を1回(4kg/10a)したところ、散布後42、70日の最大残留量は0.28、0.03ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

だいこん(葉部)を用いた作物残留試験(2例)において20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布(100~200/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は0.06、0.24ppmであった。

⑧ ⑨ はつかだいこん

はつかだいこん(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布(150L/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.01、<0.01ppmであった。

はつかだいこん(葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布(150L/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

⑩ ⑪ かぶ

かぶ(根)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布(306.8又は242.4L/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は、0.02、0.02ppmであった。

かぶ(葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布(306.8又は242.4L/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は1.02、1.57ppmであった。

⑫ ワサビダイコン

ワサビダイコン(根茎)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布(150L/10a)したところ、散布後7日の最大残留量は、<

0.01、 <0.01 ppmであった。

⑬ はくさい

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理（2g/株）1回及び20%水溶剤の1000倍希釈液を3回散布（64~150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.15、0.18ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

⑭-1 キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理（2g/株）1回及び20%水溶剤の1000倍希釈液を5回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は1.09、0.90ppmであった。

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理（2g/株）1回及び20%水溶剤の1000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.24、0.42ppmであった。

⑭-2 メキャベツ

メキャベツ（芽球）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後6、7日の最大残留量は、 <0.05 、0.10ppmであった。

⑮ こまつな

こまつな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、1.00、1.76ppmであった。

⑯ みずな

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、1.00、2.25ppmであった。

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、1.44、1.75ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

⑰ チンゲンサイ

チンゲンサイ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理（1g/株）1回及び20%水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後14、7日の最大残留量は2.72、1.22ppmであった。

⑱ カリフラワー

カリフラワー（花雷）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200、266.7～300L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.18、0.34ppmであった。

⑲ ブロッコリー

ブロッコリー（花雷）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理（2g/株）1回及び20%水溶剤の**1000倍**希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.36、0.64ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

⑳-1,2 非結球メキャベツ

非結球メキャベツ（えき芽葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.60、0.68ppmであった。

非結球メキャベツ（本葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.88、2.85ppmであった。

⑳-3 茎ブロッコリー

茎ブロッコリー（花雷及び茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の**2000倍**希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は、0.40、0.12ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

⑳-4 なずな

なずな（茎葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.24、0.48ppmであった。

⑳-5 ひこしまはるな

ひこしまはるな（茎葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴土壌混和を1回散布（1g/株）したところ、散布後53、54日の最大残留量は、<0.1、<0.1ppmであった。

㉑ しゅんぎく

しゅんぎく（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を2回散布（300、150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、2.02、0.39ppmであった。

㊦-1 レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150～250L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は0.08、0.31ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理（2g/株）1回及び20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（80.8～200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.54、0.34ppmであった。

㊦-2 リーフレタス

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を1回散布（245～257.257.1L/10a）散布、及び2%粒剤の定植時株元散布（0.5g/株）したところ、散布後7～21日の最大残留量は1.68、1.48ppmであった。

㊦-3 ロメインレタス

ロメインレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を1回散布（200、300L/10a）及び2%粒剤の定植時株元散布（0.5g/株）したところ、散布後7～21日の最大残留量は2.67、1.02ppmであった。

㊦-1 くきちしゃ

くきちしゃ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は<0.05、<0.05ppmであった。

㊦-2 ははこぐさ（ゴギョウ）

ははこぐさ（ゴギョウ）（茎葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は0.34、0.77ppmであった。

㊦-3 食用ぎく

食用ぎく（花卉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（150、200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、1.26、0.48ppmであった。

㊦-4,5 ふき

ふき（葉柄）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の定植直後株元散布を1回（2g/株）及び20%水溶剤の3000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、0.10、0.06ppmであった。

ふき（葉柄）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の株元散布を1回（2g/株）したところ、散布後82、100日の最大残留量は<0.05、<0.05ppmであった。

㉔ たまねぎ

たまねぎ（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

㉕-1,2 葉ねぎ

葉ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.14、0.15ppmであった。

葉ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の株元散布を3回（6kg/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

㉕-3,4 根深ねぎ

根深ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

根深ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を株元処理を3回（6kg/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

㉖ にら

にら（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は、1.46、1.84ppmであった。

㉗ アスパラガス

アスパラガス（茎）を用いた作物残留試験（1例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は0.20ppmであった。

アスパラガス（茎）を用いた作物残留試験（1例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は0.07ppmであった。

㊸ わけぎ

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤（6kg/10a）1回散布及び20%水溶剤の2000倍希釈液（300、278L/10a）3回散布したところ、散布後7日の最大残留量は、1.36、0.14ppmであった。

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤（6kg/10a）1回散布及び20%水溶剤の4000倍希釈液（300、278L/10a）3回散布したところ、散布後7日の最大残留量は、0.40、<0.05ppmであった。

㊸-1 食用ゆり

食用ゆり（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を4回散布（150、200L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

㊸-2 らっきょう

らっきょう（鱗茎）を用いた作物残留試験（3例）において、20%水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（150、200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は、<0.01、0.03、0.02ppmであった。

㊸ パセリ

パセリ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後3日の最大残留量は、1.10、0.39ppmであった。

㊸ セロリ

セロリ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の定植時植穴土壌混和を1回（0.5g/株）したところ、散布後71、100日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppmであった。

セロリ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（250、235L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.85、0.30ppmであった。

㊸ みつば

みつば（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の8000倍希釈液を1回散布（150、200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は、0.97、1.82ppmであった。

㊸-1 ミニトマト

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、15%燻煙剤の燻煙処

理 (50g/400m³) 及び 2%粒剤(1g/株)定植時植穴土壌混和したところ、散布後 1 日の最大残留量は、0.16、<0.05ppm であった。

ミニトマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 2000 倍希釈液を **3回**散布 (300L/10a) 及び 2%粒剤の定植時植穴土壌混和(1g/株)したところ、散布後 1 日の最大残留量は、0.50、0.73ppm であった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

ミニトマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤を定植時植穴土壌混和 (1g/株) 及び 1%粒剤を生育期株元散布(2g/株)したところ、散布後 1 日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppm であった。

③-2 トマト

トマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 2000 倍液希釈液を 2 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 1~7 日の最大残留量は 0.23、0.42ppm であった。

トマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の 2000 倍液希釈液を 2 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 1 日の最大残留量は、0.21、0.46ppm であった。

トマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤の植穴混和处理 (2g/株) 1 回及び 20%水溶剤の 2000 倍液希釈液を 2 回散布 (200L/10a) したところ、散布後 1、3 日の最大残留量は、0.20、0.20ppm であった。

トマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、15%燻煙剤を 2 回燻煙 (50g/400m³) したところ、散布後 1、3 日の最大残留量は、0.02、0.04ppm であった。

トマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤の定植時植穴混和 (2g/株) 1 回及び株元散布 (1g/株) 2 回処理したところ、散布後 1 日の最大残留量は、<0.05、<0.05ppm であった。

④ ピーマン

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤の植穴混和处理 (1g/株) 1 回散布したところ、散布後 93、44 日の最大残留量は、0.04、0.15ppm であった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20%水溶剤の **2000 倍**液希釈液を **3回**散布 (250~300/10a)したところ、散布後 1 日の最大残留量は、2.33、1.45ppm であった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、15%燻煙剤を3回散布（50g/400 m²）したところ、散布後1日の最大残留量は0.24ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、15%燻煙剤を3回散布（50g/400 m²）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.20ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理（1g/株）1回処理したところ、処理後84、78日の最大残留量は、0.03、0.01ppmであった。ただし、これらの試験は適用の範囲内で行われていない。

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（200～400/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は、0.18、0.40ppmであった。

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を植穴土壌混和処理（0.5g/株）1回及び1%粒剤を生育期株元散布（2g/株）2回処理したところ、散布後1日の最大残留量は、<0.05、0.05ppmであった。

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴土壌混和処理（0.5g/株）1回及び15%燻煙剤を2回燻煙（50g/400 m²）したところ、散布後1日の最大残留量は、0.24、0.14ppmであった。

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の定植時植穴土壌混和処理（0.5g/株）1回散布及び20%水溶剤の4000倍希釈液を2回散布（150、220.4L/10a）茎葉散布したところ、散布後1日の最大残留量は、0.32、0.43ppmであった。

㊦ なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤の植穴混和処理を1回散布（1g/株）したところ、散布後63、60日の最大残留量は、0.04、0.02ppmであった。

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後1～3日の最大残留量は、0.15、0.54ppmであった。

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の4000倍希釈液